

関門海峡でスナメリを確認

新しいイルカの観察手法を開発しました

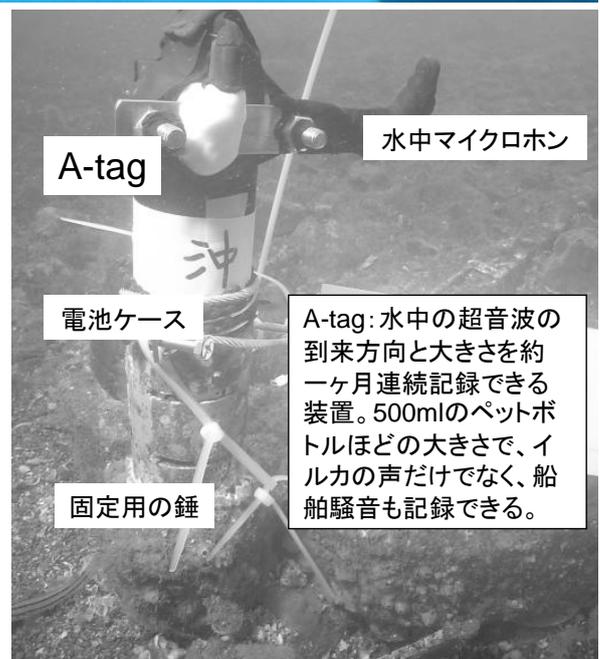
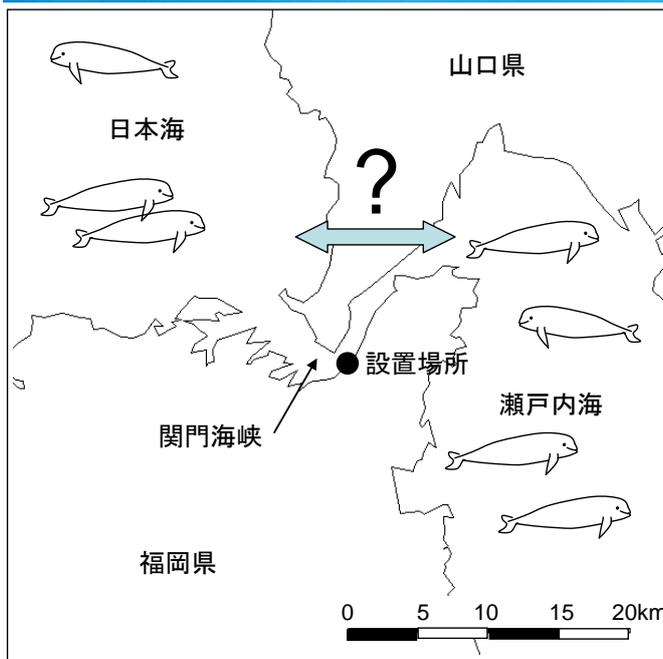
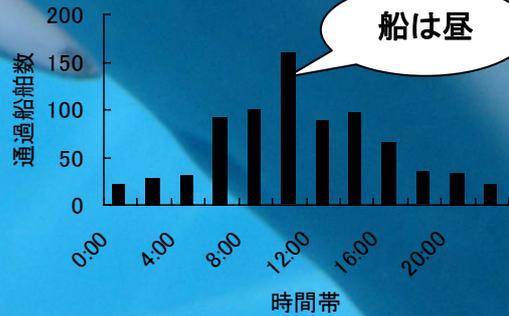
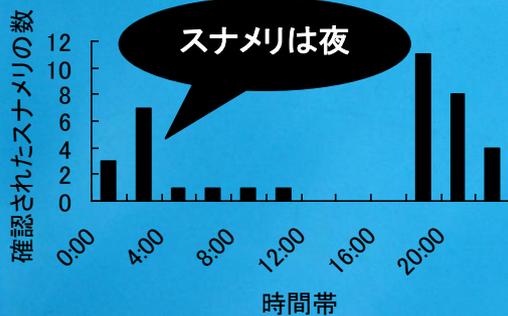
水産情報工学部

研究の背景・目的

スナメリは、日本に住む私たちにもっとも身近な小型イルカで、沿岸の食物連鎖ピラミッドの頂点にいる。スナメリを適切にモニタできれば、海洋生態系の指標としてだけでなく、水産資源保護法で厳しく管理されている本種の保全にも役立つ。本研究では、スナメリの発する超音波音声を受信して、これまで稀にしか現れないとされてきた関門海峡に本種がしばしば出現していることを確認した。

研究成果

関門海峡に定点型録音装置(A-tag)を設置したところ75日間に37個体のスナメリが音響的に検出された。ほとんどのスナメリは夜間に出現し、正午から夕方6時の間は観察されなかった。航走雑音から計数した通過船舶は昼間に多かった。スナメリは、潮流と同じ方向に泳ぐ傾向が認められた。関門海峡の東西にはスナメリの個体群が存在していることが知られているが、それらは5ノットに達する関門海峡の潮流の中を自在に交流しているらしい。Fisheries Science 印刷中



(行動生態情報工学研究室・赤松友成)

(独)水産総合研究センター水産工学研究所 <http://nrife.fra.affrc.go.jp/>